

軍艦島元島民ら反論へ

韓国主張に「差別ない」

国連シンポ

戦時中の徴用をめぐる、朝鮮半島出身者が長崎市の端島炭坑（通称・軍艦島）で差別的な扱いを受けたと韓国側が主張している問題で、端島の元島民らが来月2日、シユネーブの国連欧州本部でシンポジウムを開き、韓国側の主張に反論することが5日、分かった。韓国の映画や絵本は軍艦島を「地獄島」などと表現しているが、元島民は「朝鮮人労働者は運命共同体だった。差別して共同体を壊すことはなかったと伝えたい」と話している。

＝5面に「仲裁委に込せず」

シンポジウムは、史実の発信に民間の立場で取り組む「国際歴史論戦研究所」（所長・山下英次大阪市立大名誉教授）が今月24日に開幕する国連人権理事会のサイドイベントとして企画している。元島民の坂本道徳氏（65）がスピーチし、元島民らの証言を集めた動画を上映する。

坂本氏は朝鮮人労働者と

作業した元島民から当時の状況の聞き取り調査をしており「戦時労働者たちは出

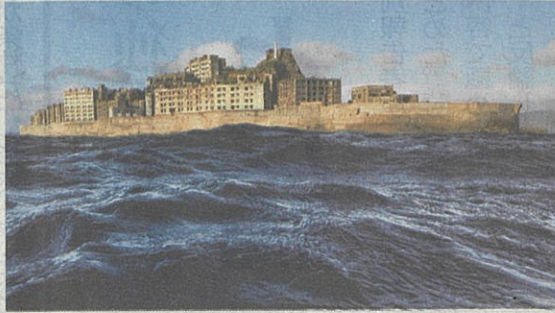
身地の区別なく結束が強かった。さまざまな記録も調べたが、韓国が主張する差

別的な事例は全く出てこない」と話している。またシンポジウムは、い

軍艦島の「徴用工」問題
平成27（2015）年、長崎市の端島炭坑（通称・軍艦島）を含む「明治日本の産業革命遺産」が国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界文化遺産に登録された。これに対し韓国で反発が起き、虚偽や創作で軍艦島を「地獄島」と位置づける映画が制作されるなど戦時徴用をめぐる誤解が広まった。

わゆる徴用工に関し「朝鮮人を意図的に危険で劣悪な作業に配置したという通説は事実と異なる」と結論づけた論文を書いた韓国・落星台経済研究所の李宇衍（イウソ）研究員も登壇し、「韓国の『強制徴用』の神話」と題して研究成果を説明する予定だ。

メージが国連会合を通じて拡散した側面があり、国際歴史論戦研究所は戦時徴用に関し「国連に日本の正当性を主張する必要がある」としている。同研究所は、戦時中に朝鮮人への賃金上の差別はなく、朝鮮人徴用に不法性はなかったとする意見書を国連人権理に提出する準備を進めている。



旧海軍の戦艦「土佐」に似ていることから「軍艦島」と呼ばれている長崎市の端島（奈須嶺撮影）